

薬剤師になる目標に向かって

石田 和久

(令和2年度国試合格、病院勤務)

酷暑猛暑に加え、今や年間を通じて繰り返す新型コロナウイルス感染症の再拡大の中、来る国家試験に向けて自分自身を奮い立たせながらの日々かと察します。大学の講義や合宿、特別授業も制限され、コロナ以前とは全く異なる学習環境になっています。

またマスク越しの対面での講義や意思疎通は、主に耳からの聞き取りが重要になり、口の動きや表情を視覚的に認識するのは難しく、理解し納得して習得するのは、かなりの注意力と観察力が必要になっています。家族として私たちもコロナ禍が始まった1昨年前は日に日に不安と焦りが募っておりました。しかしこの状況は私自身が薬剤師として日々の対面での業務を行う中で何度も遭遇することであり、伝えることの難しさを実感するとともに患者・家族に正確に伝わったか気になるところです。その点、双方向性のweb面談やオンライン服薬指導は通信状況が安定して確保できれば、視覚・聴覚を活かして伝えることができ、表情からも理解の程度を感じ取ることができます。今の困難な学習環境の中、オンライン講義などで経験を重ねることは、実際の臨床の場でも役立つということです。受験生1人1人の学びの仕方は様々ですが、時代に相応したインターネットでの学びの機会をどう生かすかも大切です。

さらに国家試験の作成に関わる先生方は厚生労働省のホームページに「薬剤師国家試験委員名簿」として公開されていますが、どの先生も臨床や基礎、理論等の一線で活躍されており、国家試験が薬学を取り巻く最新の状況を反映して進化し続けているのも頷けます。身の回りの社会環境の変化に気を付けることも必要です。

今、薬剤師国家試験に向け、様々な立場や厳しい環境に置かれた方々が合格を目指しています。数年前とは異なる環境の中、肉体的・精神的にも厳しい状況ですが、克服した暁には一生の資格を得ることになります。そして薬剤師になっても生涯学習です。この学びは行かせます。頑張りぬいた自分に自信を持ってください。苦勞して勉学を積み重ね、その間、失敗もあるかもしれません。しかし、そこで経験したことは人生の財産です。薬剤師としての対人業務は、いかに信頼を得て長続きできるかです。苦しい勉学を乗り越えて、どのような逆境にも“逃げない・負けない・諦めない”精神を培ってください。

最後に、受験生は長い薬剤師人生を勝ち抜く基礎を作っている最中です。保護者としては温かくそして信じて見守ることで。必ずや活躍できます。期待してください。